

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 令和4年度吉城高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和4年10月3日(月) 14:30~15:30
* 15:35~「総合的な探究の時間」授業参観
- 3 開催場所 吉城高校 会議室
- 4 参加者

会長	柴田 駿一	吉城高校同窓会長
副会長	沖畑 康子	飛騨市教育長
委員	川上 佳洋	宇宙まるごと創生塾飛騨アカデミー理事長
	渡邊 正憲	(株)飛騨ダイカスト代表取締役
	船坂 志乃	R3吉城高校育友会女性部長
	齋藤 憲一	飛騨古川青年会議所理事長
	竹林 千恵子	吉城高校育友会女性部長
学校側	野々山 伸一	校長
	中田 和美	教頭
	大乘坊 健	事務長
	小澤 耕	教務主任
	河野 和代	生徒指導主事
	井田 和実	進路指導主事
	桐谷 直嗣	特別活動部長
	鈴木 泰輔	キャリア推進部長
	野村 剛志	理数科主任
オブザーバー	布俣 正也	岐阜県議会議員

5 会議の概要(協議事項)

(1) 学校長より取組説明

- ・各分掌の取組について
- ・学校評価アンケートの結果について

意見1: 総合的な探究の時間を見ることになっているが、YCK、ESD、それぞれの違いを説

明してもらいたい。

⇒教科の指導を真ん中にし、その周りに①学校設定科目のESD、②課題活動プログラム、③総合的な探究の時間の3つが大きな三角形を形作っており、教科の授業を科目横断的につないでいき、①と②と③がつながってそれぞれが関係しながら、YCKプロジェクトになる。地域との連携、新しい学習指導要領の前文の中にある連携し、協働する、そういった生徒を育てるプログラムになっている。

意見2：全国でも先進的な取組みなのか。

⇒見せ方はいろいろあり、似たような取組はあるが、先進的だとは思いう。本校は総合的な探究の時間含めて渾然一体となっているが、それぞれ役目がいろいろ違う。深掘りしたり、動機付けして手を広げたりしながら、いろいろと活かせるものとして全員が実施する授業が今日見ていただく総合的な探究の時間だ。

「吉校ニュース」にも実施レポートがあるのでそのあたりを読むとつかんでいただけたと思う。前回の学校運営協議会では①の学校設定科目であるESDを見ていただいたので、今回は③の総合的な探究の時間を見学していただく。

意見3：スクールポリシーを手間暇かけて作成した。ここ1年吉城高校の希望者が増加したということですがそれを、喜んでいるだけでなく、新入生になぜこの高校を選んだかということ进行调查してほしいという提案があったと思うがどうなっているか。

⇒教務と進路で調査はとってる。第3回の学校運営協議会には資料を提供する。

意見4：学校運営協議会に参加することによって勉強させてもらいたいと思っている。

意見5：育友会の役員をしてもらおうと学校のことがいろいろわかる。いろんな方に役員をしてもらおうといいと思う。就職情報誌の取材で聞いたのですが、他地区に進学で出ると地元に戻ってくる子が少ない中で、吉城高校の生徒は地元志向が強い生徒さんも多いと。ぜひ、帰ってきてくれるような教育活動をしてもらいたい。

意見6：地域との連携が大切だとわかった。保護者の思いや生徒さんの思いもアンケートで分かった。いろいろ頑張っていたらいい。

意見7：子どもが卒業して高校の活動に携わることができなくなったが、文化祭でバザーをやったものと思っていたが、今年もバザーができなかったと知った。昨年YCK発表会を見て、すごいな、学校でこんな取り組みやっているんだなと思い、地域の人にも見てもらいたいという思いになった。コロナの状況もありますが、今年学校の情報発信の一つとしてぜひいろんな人にみてもらいたい。

意見8：なぜ吉城高校を選んだかということについてはぜひ視覚化してもらいたい。それから、アンケートから「わからない」という回答が一定数あるので、この分析をするべきだ。

意見9：小中学校でのアンケートでは、わからないということは伝わっていないということだよ、それが一番問題じゃないかな、といつも言っている。保護者はさほどの興味を持ってもらっていないということはあるが、生徒のアンケートの中にも生徒会活動が分からないと答えているのは何なのかと。判断基準が分からないと

ということなのかとも思ったりするが、生徒の中で分からないという回答をすることをなくしていきたいと思う。ABCの選択肢ではBCで済みますのが飛驒の子なのかもしれないが、はっきりと自分の意志が示せることを進めたいと思う。挨拶運動を中学校がやろうといったときに校長先生がすぐにやろう、となってくださったことはとても嬉しかった。地域の人もそういうのを見るととても嬉しい気持ちになるのではないかと思う。古川小学校の運動会に、吉城高校の吹奏楽の生徒が有志でファンファーレをしてくれました。とっても素敵でした。いい取組だと思う。働き方改革もあり、有志でよいので、やりたいことが地域でできる取組が広がればよいと思う。町の中に子どもたちの姿があるということを作っていく。それが活性化になるんじゃないかなという風に思っている。新聞の折り込みチラシの作成も両校の子どもたち話し合っただけで作っていた。生徒は話し合うことは楽しいと言っていた。壁を越えてつながることができるとうよい。

意見 10：この協議会で議論されることをここで終わらせてはいけないと思う。それを持ち帰っていただいて、地域でもこれをしっかりと伝えていかなきゃ行けない。HPでも報告されてるけれど、実際地域の方や保護者がHPを見ているわけではない。吉城高校がどんなことをしているのか、広報のことを考えるべきだと思う。先生方は生徒さんに向き合うので大変忙しいと思うが、それ以外のスタッフを交えて、広報を継続的に、吉城高校の良さを地元の皆さんに伝えていく事業ができるとよいと思う。それが地元に戻ってくることもつながる。

意見 11：県議会の中で課題探究に関する話を教育長としていたところ、県全体の中で一番に出てきたのが吉城高校の実践事例だった。県教委としてもしっかり見ている。小さい高校だが独自性を出しながら、アイデアを出してよりよい高校にしていきたい。

- (2) 「総合的な探究の時間について」
・説明（説明後各自見学）

6 会議のまとめ

第2回学校運営協議会において、各分掌の前期分の学校の取組と学校評価アンケートの結果を説明した。参加の委員からはさまざまな意見を得、活発な意見交流の場となった。本校が特に力を入れて取組んでいる探究活動については、理解を深めていただく工夫もしている。第1回の協議会後に、学校設定科目である「地域課題探究」の授業を参観していただき、意見も得た。今回は「総合的な探究の時間」の授業を見ていただき、概ね好評を得た。第3回では、その総まとめとしてYCKプロジェクトの報告会も参観していただく予定である。